



さとのかぜ No. 151

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
12月号 2007年12月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地
TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252
URL <http://www.isumi-sato.com/>

ワラ1本の文化を継承



◇ワラ利用の体系

ワラは、葉にあたるハカマ、幹にあたる稈、稈の先端部のミゴの3つの部分からなっています。宮崎清氏は、彼の著書の中で次のようにワラ利用を体系づけています。まず、脱穀によって得られたワラは、そのままの形で、燃料、飼料、肥料、敷ワラなどとして用いられました。ワラはそのハカマが取り去られるとスグリワラとなり、ワラ細工に用いられるワラは、このスグリワラです。このとき、稈から取り除かれたハカマ（葉）は、各種の容器や寝床、布団、靴類などの詰め物として用いられる他、燃料、飼料、肥料としても活用されました。スグリワラは、単独かあるいは茅と併用されて屋根葺き材として用いられたり、住居や小屋の風雨避け、土壁に塗り込まれていく寸紗（すさ）、あるいは衣・食・住、生業、運搬、祝祭、遊戯など用具等の製作などに用いられました。また、ミゴは、しおり、結束、細工物などにそれぞれ用いられ、「ワラ1本無駄にするな」というのは、親から子供へのしつけの言葉でした。

<参考文献 宮崎清著「ものと人間の文化史 藁I」 法政大学出版局>



11月のセンター行事

・『わらでおきもの細工をつくろう』

(11日)



・『第11回さとの文化祭』(17~25日)

《『わらでおきもの細工をつくろう』》

◇「根刈り」がワラの活用の発端

私たちの祖先は、水稻耕作の副産物であるワラシベ1本も無駄にすることなく、生活のあらゆる場面で活用する文化を展開してきました。稲をその根元から刈り取る「根刈り」収穫法が日本で行われるようになるのは、柄の付いた鉄鎌が登場する7、8世紀ごろのことと言われています。11世紀の初頭の平安時代中期、清少納言が、その著「枕草子」の中で収穫の様子を描写している中に、



稲を柄付きの鉄鎌で、元から刈り取る光景が記載されています。根刈りされた稲は、脱穀を済ますと、ワラという大量の副産物を生み出すことになりました。人々は、これを貯蔵して必要に応じて取り出し、活用してきたのです。

◇ウマのおきものをつくる

当日は、雨でした。参加者は、木工室に集まり、午前中は、ウマづくりをしました。講師は、いすみ市在住の尾形信保氏です。藁束を受け取った参加者たちは、まず、ワラの吟味から始めます。元の部分のハカマを取り除き、スグリワラをつくります。このうち、2本は、潰して柔らかくしておきます。最初に頭の部分をつくります。潰して柔らかくしたワラ1本を取り、元から10cm程の部分よじを振ってから戻し、耳の部分をつくります。更に5cmく



らいの部分そろを耳の部分と同様に振って戻し、顔の部分をつくります。これと同じ物を2個つくり、揃えてからワラ1本で顔の部分を巻いて仕上げます。目の付近は太めに巻いて、残った部分を用いて両耳の付け根をそれぞれ一巻してから、首の方へ流します。次に、たてがみをつくります。わらの根元を5cmほど残して、首に巻き付けていきます。同様に7本を並べて巻き付けたてがみとします。次に、胴の部分にするワラを8本取り、4本ずつを互い違いにして揃え、中心部分から折り曲げて、胴にします。このとき、首の部分のワラは、2つに分けてワラで仮に縛り、2本の前足とします。ここで、残りのワラ20本のミゴを20cmほどの長さに取り、尾とします。胴の部分を10cmほどとして、折り曲げ、2つに分けて後ろ足とします。前足と後ろ足の長さを決めて切り取り、ワラで縛って形作ります。

最後に、手綱たづなと下鞍くらを取り付けて完成です。

◇カメのおきものをつくる

昼食を挟んで、午後からは、カメの制作にかかりました。午前中と同様に、まず、ワラを潰して柔らかくした後、ワラの吟味をし、ハカマを取り除いて、スグリワラをつくります。24本を取り出して、12本ずつその元の部分をワラで束ねます。その束のワラを3本ずつ4つに分けて両手に持ち、これを写真のように四つ目編みのように編んで甲羅こうらの部分とし、4方に出ている部分を足としてこれをワラで仮に縛っておきます。次に、ワラ6本くらいで、上記のウマの耳を作った要領で、カメの頭を作ります。また、ワラ6本で左繩をなして、これを甲羅の回りにタコ糸で取り付け、同時に頭の部分も同様にして取り付けます。最後に、糊しりのついた稲穂を尾として10本くらい取り付けて完成です。全員が良い出来栄で、時間の経つのを忘れるほどの熱心さでした。（渡邊美利）



《第11回『さとの文化祭』》

当センターでは、毎年、自然環境や文化に関心を持っていただくとともに、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人が増えていくことを願って、近隣の小学生と一般の方々の作品の展示会を実施しております。作品を出していただいた小学校は21校で、分野別の出品点数は、絵画265点、自由研究65点、工夫工作62点、その他1点でした。また、いすみ市岬町の俳画クラブからは6点の出品をしていただきました。各学校の校長先生はじめ先生方には、作品制作に当たってのご指導やご多用のところ作品の搬入や搬出にご足労をいただき誠にありがとうございました。また、一般参加の俳画クラブの皆様には、毎年のようにご協力をいただきありがとうございました。

ご提出いただきました小学生の作品の絵画につきましては、審査を大多喜町在住の梶原章子先生にお願いし、各学年とも原則として、最優秀賞1点、優秀賞3点を選んでいただきました。また、自由研究や工夫作品につきましては、当センターの自然観察指導員が原則として、それぞれの分野について、各学年とも最優秀賞1点、優秀賞2点を選ばせていただきました。絵画は、子どもたちのみずみずしい感性と豊かな創造力に満ちた作品が多く見られました。自由研究では、子どもたちの気付きを大切に、自然現象や生き物に対する素朴な疑問の解明を素直な観察眼を通して進めている様子が、筋道だてて記載されており感心しました。また、工夫作品では、野草や木の実などを豊かな想像力で形作ったものが見られました。展示期間中には、たくさんの参観者がありました。（渡邊美利）



和泉-日在浦だより 初冬の海岸 (12/1)



ダイサギ集う日在潟 (11/21)

[冬鳥の飛来]

和泉-日在浦海岸や日在潟では、留鳥のカルガモ、ダイサギ、アオサギ、カワウ、カワセミ、ハクセキレイなどに混じって、ミユビシギ、ヒドリガモ、コガモなどの旅鳥が見られるようになってきました。日在-江場土地区では、宅地開発に伴い森の樹木や竹藪の伐採が進められたため、スズメやムクドリの群れを観察する機会が少なくなっています。ウグイスは猛暑の影響か夏以降美声を聞くことがなく残念でした。

[ヨウ素利用進む]

ヨウ素は甲状腺ホルモンの主要成分として人体に必要で、日常生活における利用分野が極めて広範にわたる資源ですが、千葉県は世界生産の3分の1を担っています。いすみ市や茂原市周辺にはヨウ素含有かん水を汲み上げる井戸がたくさんあり、ヨウ素生産工場の拠点となっています。

今年10回目を迎えた「ヨウ素学会国際シンポジウム」に出席し、医薬品、X線造影剤、有機化合物生産の溶媒に加えて、新たに食品殺菌や液晶ディスプレイの偏向幕生産での応用が世界的に広まっていることを知ることができました。貴重な資源のため、わが国ではヨウ素供給の20%は回収資源です。



ヨウ素研究の発表会場で(千葉大11/16)



孵化調査風景(11/30)

[今年度のアカウミガメ孵化調査]

11月30日いすみ市により今年度のアカウミガメ孵化調査が行われました。当地では上陸8ヶ所、産卵6ヶ所で、このうち5ヶ所で孵化し子ガメが無事旅立ちました。5ヶ所の産卵総数は596ヶ、うち孵化総数430ヶだったことが分かりました。残り1ヶ所は最後の産卵巣(8月26日、和泉浦)で、孵化が期待されていましたが、産卵数119ヶは全て未孵化でした。その理由として2回の台風や高潮による冠水、気温低下等が考えられます。(6ヶ所全体の平均孵化率60.1%)

日在浦ではすでに砂浜の高台が喪失しており、また今年産卵・孵化のあった和泉浦や夷隅川河口左岸では、砂浜の侵食が続き高さを失いつつあるので、明年以降のアカウミガメ繁殖への影響が懸念されるどころです。

[森谷 洵(もりや ふかし)]

◎今、いすみでは???

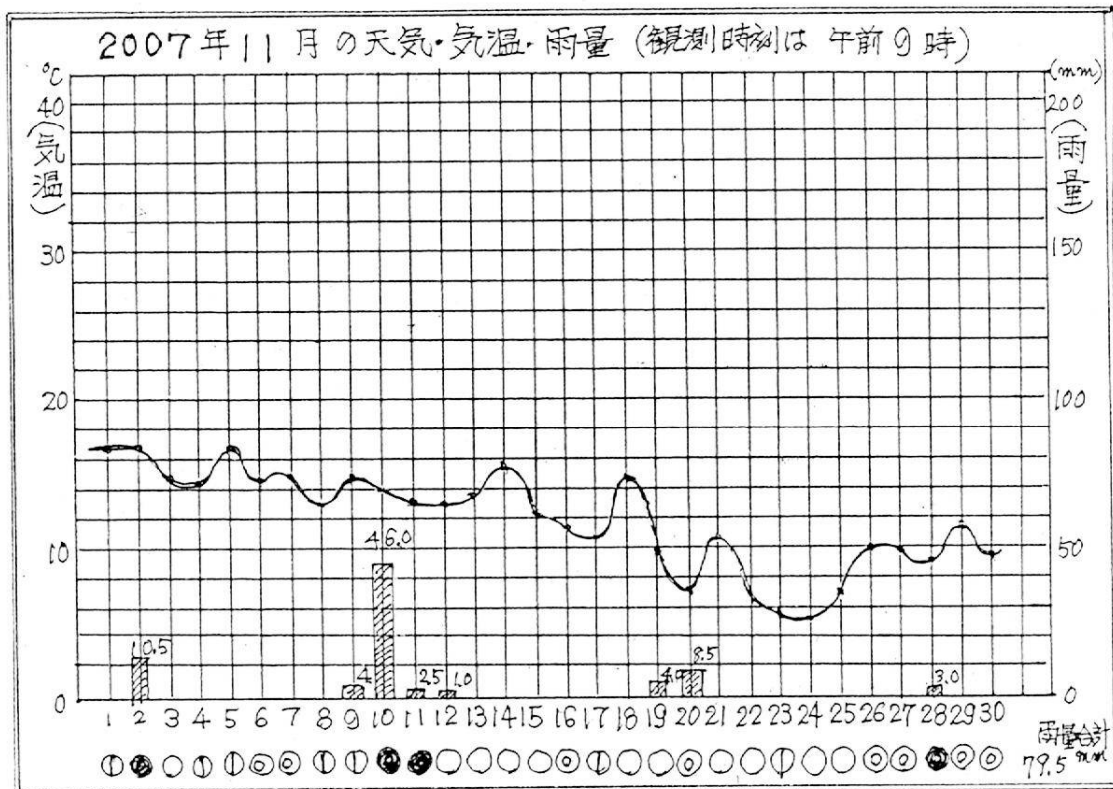
今年、天候が後へ後へとずれ込んでいて、寒さもなかなか来ないのではないのかな？と思っていましたが、11月の下旬になってから、急に、10℃以下の気温の日が続き、寒さも急に加わってきて、今朝（11月24日）は、ネイチャーセンター脇の木道や、水田などで真っ白な『霜』を見ることができました。『ようやく、天候が暦に追い付いてきたのかな』と思いました。

日の当たっている屋根の庇（ひさし）からは、バタ、バタッと音を立てて、雨垂れが落ちていました。いよいよ、いすみの里にも、冬がやってきました。

今日（11月24日）センター地区を歩きました。刈り取られた草の間から、伸びてきたセイヨウタンポポ（キク科）が、いくつも花を開いていましたが、どれも花茎が短く、葉も長くは伸びていませんでした。その他、咲いている花や、すでに実や種子になっている野草が多く見られましたので、挙げてみます。

花を着けている野草では、セイトカアワダチソウ（キク科）、キツネノマゴ（キツネノマゴ科）、ウシハコベ（ナデシコ科）、イヌホオズキ（ナス科）、イヌタデ（タデ科）、ヤツデ（ウコギ科）、アオミズ（イラクサ科）、ヤクシソウ（キク科）、リュウノウギク（キク科）、イヌガラシ（アブラナ科）、タネツケバナ（アブラナ科）等が見られました。

実や種子になっている野草や樹木も多く見られましたが、紫色の実を付けているムラサキシキブ（クマツヅラ科）は、実の色が印象的でした。（芝崎昌彦）



(○: 快晴(11日), ⊙: 晴(7日), ⊕: 曇(8日) ●: 雨(4日))

12月の行事案内

◇『つるでかごづくり』 定員20名

日時 12月2日(日) 9:30~16:00

場所 センター地区

参加対象 高校生以上

持ち物 鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、山に入れる服装、お弁当

◇『もちつきをしよう』 定員40名

日時 12月15日(土) 9:30~14:00

場所 センター地区(デイキャンプ場)

持ち物 寒くない服装、タオル

◇『おかざりをつくろう』 定員前・午後各20名

日時 12月23日(日) 午前の部 9:00~12:00
午後の部 13:00~16:00

場所 ネイチャーセンター

持ち物 材料費1人400円程度、工作ばさみ
寒くない服装、座布団

《1月の行事予定》

☆『そば打ちをしよう』 定員20名

日時 1月20日(日) 9:30~14:00

場所 つどいの家(いすみ市松丸地区)

集合 ネイチャーセンター

持ち物 材料費実費負担、割烹着、手ぬぐい、タオル、ボウル、熱い飲み

参加対象 中学生以上

◇『わらぼうしを作ろう』 定員20名

日時 1月27日(日) 9:30~16:00

参加対象 小学5年生以上

場所 ネイチャーセンター

持ち物 木ばさみ、お弁当、座布団、
寒くない服装

※12月1日(土) 午前9時から、2月の行事申し込みを受け付けます。

行事への参加申し込み、お問い合わせは、☎(0470-86-5251)または、直接センター事務室にお申し出ください。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

*FAX可(0470-86-5252)

*eメール可(メールアドレス: info@isumi-sato.com)

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ずセンターまでご連絡下さい。

いすみ楊枝

—千葉県伝統的工芸品—

日時 12月16日(日) 9:30~16:30

場所 ネイチャーセンター

講師 高木 守人氏

参加料 無料(材料費実費負担)

内容 楊枝・花入れ・茶杓作り

センターでは、千葉県伝統的工芸に指定されている「いすみ楊枝」を、県内外に広く紹介するために毎月1回、高木守人氏に実演をしていただいております。

次回は、1月20日(日)の予定です。

《2月の行事予告》

☆『干潟の鳥たち』 定員20名

日時 2月3日(日) 8:30~11:30

場所 夷隅川河口周辺

(いすみ市岬町和泉地区)

集合 ネイチャーセンター 8:30

◇『つるでかごづくり②』 定員20名

日時 2月24日(日) 9:30~16:00

場所 センター地区

参加対象 高校生以上、

持ち物 鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、
山に入れる服装、お弁当

◆◆◆◆ 利用案内 ◆◆◆◆

休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間: 9:00~16:30、 入館料: 無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。